



京都北部（丹後地域）の 弥生時代石製玉類の生産について

田代 弘（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター）

1．はじめに 京都府弥栄町奈具岡遺跡では、弥生時代中期に、鉄製工具類を用いた先進的な石製玉類生産（玉作り）が大規模に行われていたことが判明した。この発見で、丹後地域の弥生時代玉作りの実態が初めて明らかとなった（田代ほか1993・河野ほか1997）。同時に、弥生時代玉作りと鉄製工具に関する議論を大きく進展させる役割を果たした（野島・河野2001）。以上の成果を中心として、丹後地域弥生時代の玉作りを概観する。

2．丹後の弥生時代玉作り遺跡 丹後地域において、弥生時代玉作りに関連する遺物・遺構が確認されている遺跡は12遺跡である。工房と推測される遺構に伴って未製品類、工具類などが一括出土して確認され、製作された玉の種類・製作工程等を知りうる事例は、弥栄町奈具岡遺跡の1遺跡のみである。これに準ずる事例として加悦町日吉ヶ丘遺跡、志高遺跡や、桑飼上遺跡がある。大半の遺跡では、関連遺物が散発的に検出されているのみである。

3．玉作りの開始と展開

開始 前期に遡る可能性がある（途中ヶ丘遺跡）。中期初頭には確実に始まる（扇谷遺跡）。

展開 中期中頃～後半にかけて遺跡数が増加する。（峰山町途中ヶ丘遺跡、野田川町寺岡遺跡、加悦町須代遺跡・日吉ヶ丘遺跡、舞鶴市志高遺跡・桑飼上遺跡）。

中期中頃に、弥栄町奈具岡遺跡が形成され始める。この遺跡では中期後半にかけて100基に及ぶ玉作り関連遺構が営まれる。中期中頃に、緑色凝灰岩ないし碧玉製管玉を素材とする生産を開始する（東地区）。中期後半にかけて鉄製工具類を伴う水晶製玉類生産へと移行し、遺跡の規模が極大化する（西地区）。玉類とともに工具類も数多く出土しており、弥生時代石製玉類生産の全体像を理解する上で重要な資料群といえる。

衰微 後期にはいと、生産は小規模化し、衰微する。宮村遺跡・谷内遺跡・古殿遺跡で1、2点の緑色凝灰岩ないし碧玉製未製品の出土をみるのみとなる。この時期以降、緑色凝灰岩ないし碧玉製管玉は、北陸製など、他地域で作られた製品が主体となるようである。

4．玉類の副葬と流通 墳墓への玉類の副葬は、中期段階では碧玉ないし緑色凝灰岩製管玉が主体をなす（志高遺跡・日吉ヶ丘遺跡）。後期には、これに加えて、舶載原料を用いて作られたガラス玉類が顕著となる。カリガラス製の小玉と鉛ガラス製の勾玉である。ガラス製玉類は1万3千点を超え、対馬と双壁をなす出土量といわれる（大阪府弥生文化博物館2002）。このように、後期には玉類副葬の主体はガラス製品へと移行する。多数の鉄器類とともに、丹後の弥生墓制を特徴づけることとなる。

参考文献

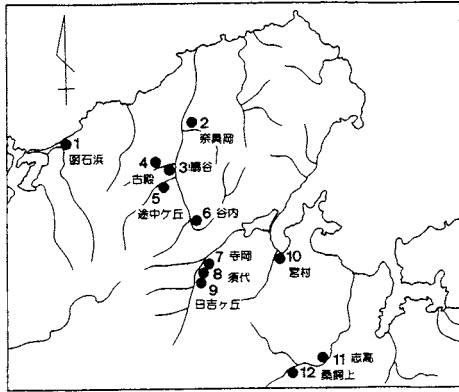
田代 弘ほか「奈具岡遺跡第4次」『京都府遺跡調査概報』第55冊（財）京都府埋文センター 1993

河野一隆ほか「奈具岡遺跡第6・7次」『京都府遺跡調査概報』第76冊（財）京都府埋文センター 1997

河野一隆『玉作りと鉄器文化』『第4回鉄器文化研究会 東日本における鉄器文化の受容と展開』鉄器文化研究会1997

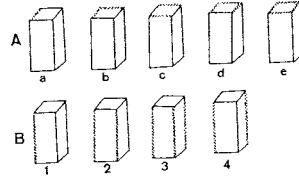
野島永・河野一隆「玉と鉄 - 弥生時代玉作り技術と交易 - 」（『古代文化』第53巻第4号 通巻第507号）（財）古代学協会 2001

『青いガラスの燦き 丹後王国が見えてきた』大阪府弥生文化博物館図録24 大阪府弥生文化博物館2002



- 1: 時期不詳 2: Ⅲ～Ⅳ 3: Ⅱ 4: V末か
 5: Ⅲ～Ⅳ (前期に遡る可能性あり) 6: V末か
 7: Ⅲ～Ⅳ 8: Ⅲ～Ⅳ 9: Ⅲ～Ⅳ 10: V末か
 11: Ⅲ～Ⅳ 12: Ⅲ～Ⅳ

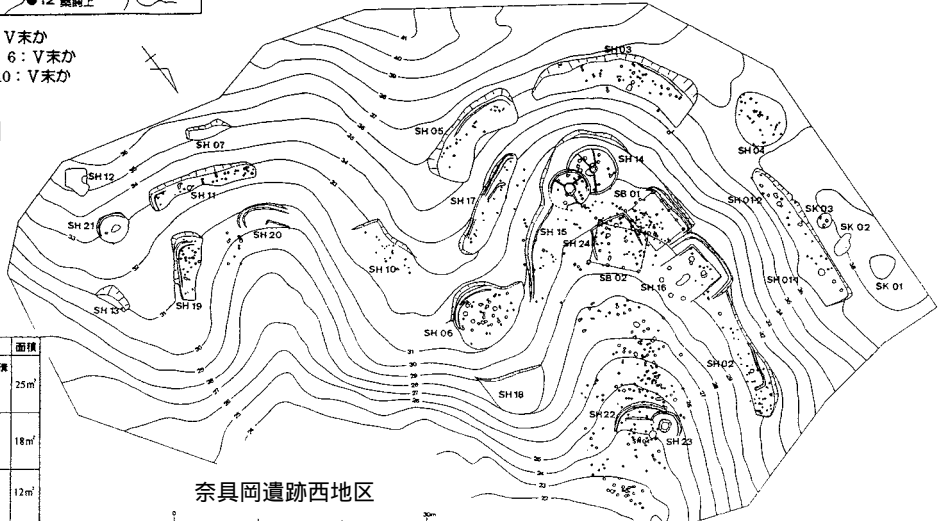
丹後地域玉作り遺跡分布図



角柱体施溝部位模式図
 破線は、掘切部位
 『下谷地遺跡』による。

S H23出土石針角柱体及び碧玉・
 緑色凝灰岩擦切施溝部位別計測表

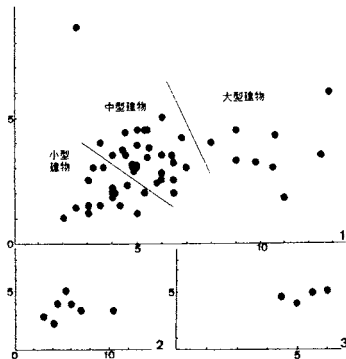
		安山岩	瑪瑙	碧玉 緑色凝灰岩
A	a	82	42	0
	b	29	36	0
	c	47	15	0
	d	26	39	0
	e	8	20	0
B	1	2	0	101
	2	4	0	51
	3	1	0	14
	4	0	0	9
総数		199	152	175



奈具岡遺跡西地区

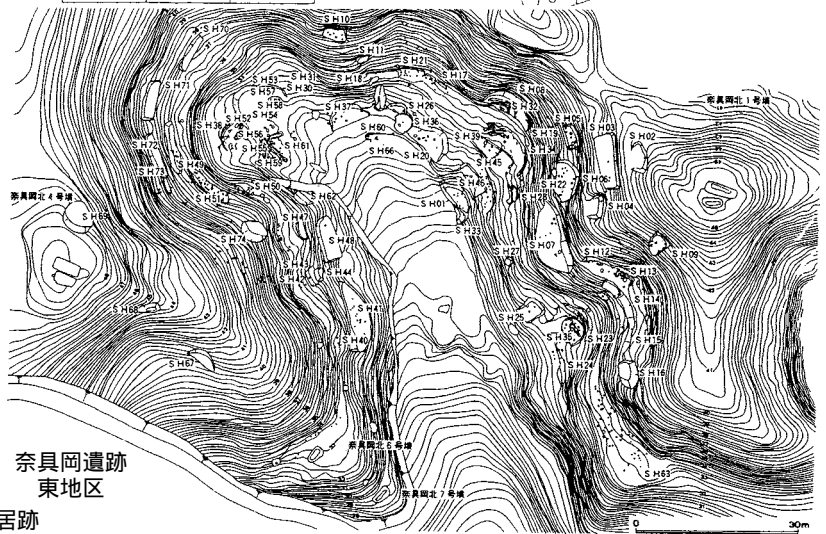
形態	名称	住居の構造と事例	面積
	円形	円形プラン・床面に防滴用の放射状溝 SH01・23・28・33・35・37	25㎡
	方形	方形プラン・周壁溝あり SH25・45・49・51	18㎡
	小型 方形	小型方形で主柱穴が不明確 SH02・04・05・06・11・25	12㎡
	テラス 状	テラス状・周壁溝あり SH02・22・24・26・27・29・32 36・39・40・46・48・50・74	19㎡

奈具岡遺跡住居跡・平面形分類



奈具岡遺跡建物規模

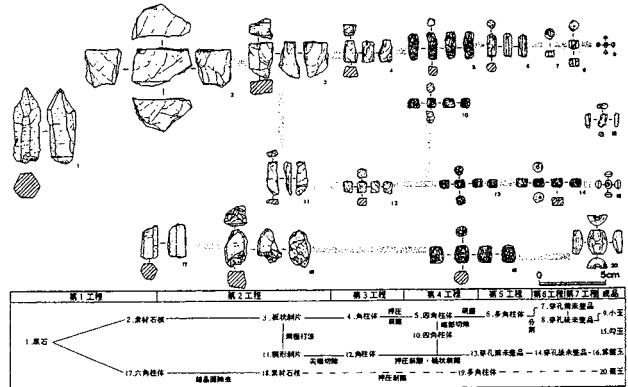
- 1: 住居跡全体 2: 円形住居跡 3: 方形住居跡



奈具岡遺跡
 東地区

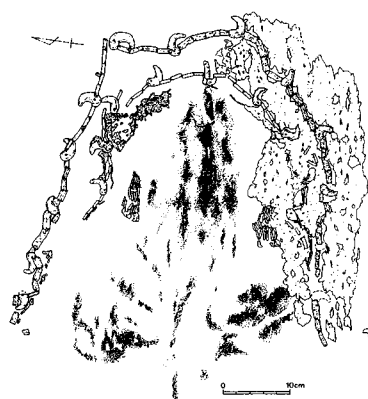
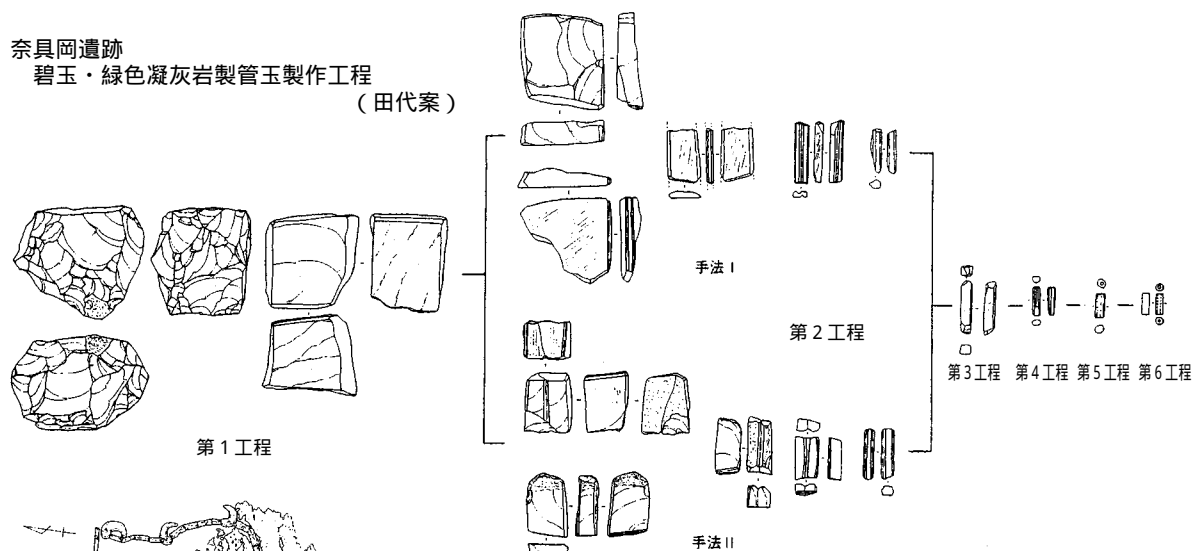
住居	層位	総量	住居	層位	総量	住居	層位	総量	住居	層位	総量	
S H01	全体	11125g	S H11	埋土	90g	S H27	床面	160g	S H48	全体	123g	
	1層	250g		S H12	全体		60g	S H28		埋土	220g	S H50
	2層	60g		S H13-14	表層	5g	S H29	埋土	38g	S H53	全体	830g
	3層	280g		S H17	全体	65g	S H30	流土	40g	S H54	全体	110g
	4層	850g		S H18	埋土	270g	S H32	全体	680g	S H55	全体	81g
	5層	470g		S H19	壁溝	50g	S H33	全体	575g	S H56	埋土	414g
	6層	1g		S H20	全体	7098g	S H34	全体	9040g	S H57	埋土	637g
	7層	1g			炉 1	2g		炉部分	180g	S H59	埋土	60g
	床面積室中	1290g			炉 2	2g			床面	15g	S H60	埋土
	流土	2166g		壁溝	130g	S H37	流土	790g	S H61	全体	265g	
表層その他	5727g	焼土付近	80g	S H38	埋土	920g	焼土	120g				
S H05	床面	30g	S H23	流土	54g	S H39	全体	3103g	焼土上面	20g		
	埋土下層	295g		S H24	流土		65g	焼土坑	40g	埋土	110g	
S H06	全体	110g	S H25	床面	20g	S H40	全体	60g	S H64	全体	150g	
S H08	床面	705g	S H26	全体	708g	S H41	全体	290g	S H66	床面	180g	
S H09	流土中	40g	S H26	床面	315g	S H45	全体	50g				

水晶製遺物出土一覧



水晶玉作り工程 (河野案)

奈具岡遺跡
碧玉・綠色凝灰岩製管玉製作工程
(田代案)



赤坂今井墳丘
墓第4主体部
出土玉類
管玉はガラス

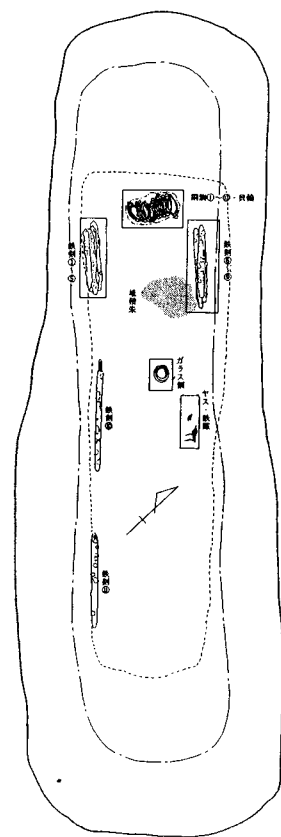
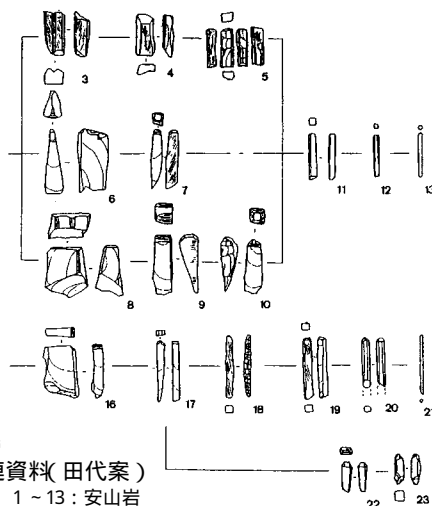


同上頭飾り復元図
(荻崎一哉案)

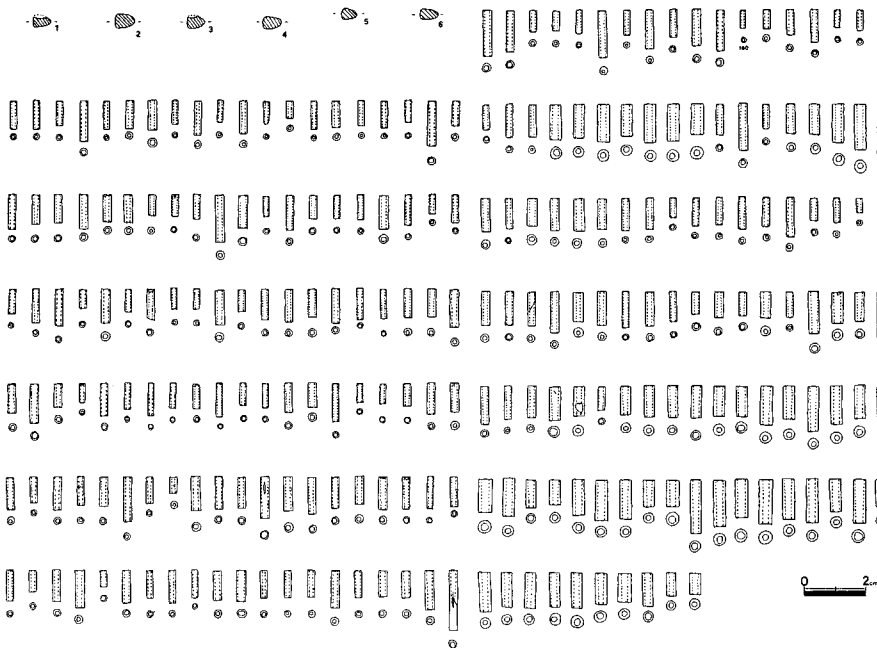


奈具岡遺跡石針関連資料(田代案)

1~13: 安山岩
14~23: 玉髓



大風呂南1号墳
第1主体遺物出土状況



第1主体出土玉類(管玉は綠色凝灰岩)